

地理情報の国際標準（ISO）及び国内標準（JIS・JPGIS）の動向

羽鳥 友彦（財団法人 日本測量調査技術協会 GIS センター）

1. ISO/TC 211 の動向

1.1 符号化に係る規格

- (1) ISO/TS 19103 (概念スキーマ言語) を IS に格上げし、UML のバージョン 2 も使えるようにする方針であったが、作業遅れの為いったんプロジェクトが廃止された。
- (2) ISO 19136 (地理マーク付け言語 (GML)) が正式に発行されたので、整合性をとるため ISO 19118 (符号化) の改正が進行中。

1.2 ISO 19115 (メタデータ)

- (1) 改定作業中。作業原案作成済み。委員会原案作成中。

1.3 ISO 19152 土地管理領域モデル (LADM : Land Administration Domain Model)

- (1) 新規作成中。委員会原案を修正中。現時点の案なら日本の地籍制度に影響は与えないが、引き続き動向を監視する必要がある。

1.4 ISO 19155 (場所識別子 (PI) のアーキテクチャ)

- (1) 委員会原案作成済み。国際規格案作成中。

1.5 ISO 19157 (データ品質)

- (1) 新規作成中。ISO 19113 (品質原理)、ISO 19114 (品質評価手順) 及び ISO/TS 19138 (データ品質評価尺度) を統合する。

- (2) 改正中の ISO 19115 (メタデータ) との整合性にも配慮する。

- (3) ISO 9000 シリーズに基づくプロセス過程による品質管理の概念導入を目指す動きが一部の欧州グループにあり、日本は強硬に反対している。

1.6 ISO/TC 211 標準ガイド

- (1) 2009 年春現在で発行済みの ISO 19100 シリーズについて概説した資料を ISO/TC 211 が “Standards Guide” (標準ガイド) として公開中。国土地理院が和訳の公開を準備中。(表 1 参照)

2. JIS の動向

2.1 品質に係る規格

- (1) JIS X 7114 (品質評価手順) が 2009 年 6 月に正式発行された。
- (2) JIS X 7114 では、JIS X 7113 (品質原理) 及び JIS X 7115 (メタデータ) との間で相違がある部分と整合性を取る必要が生じた場合は、JIS X 7113 に沿うこととした。

2.2 作業項目

- (1) 現在四つの JIS 化分科会が作業中。(表 2 参照)

3. 地理情報標準プロファイル (JPGIS) の動向

- (1) 2009 年度に JPGIS Ver.2.1 (H21.5) の一部修正を検討した。技術的に大きな変

表 1 日本からプロジェクトチーム又は編集委員会に参加中の作業項目 (2010 年 4 月現在)

規格番号	作業項目	作業段階
19110 : 2005/Amd.1	地物カタログ化法-追補 1	DAM : 国際規格案
19115rev	メタデータ (改正)	WD : 作業原案
19117rev	描画法 (改正)	CD : 委員会原案
19118 rev	符号化 (改正)	DIS : 国際規格案
19130	地理的位置決めのための画像センサモデル	DTS : 技術仕様原案
19142	ウェブ地物サービス	DIS : 国際規格案
19143	フィルター符号化	DIS : 国際規格案
19144-2	分類システム-第 2 部: 土地被覆分類システム	2.CD : 委員会原案
19145	地理的位置の表記の登録	CD : 委員会原案
19147	場所に基づくサービス-乗り換えノード	予備段階
19148	線形参照	DIS : 国際規格案
19150	オントロジ	予備段階
19151	論理場所 ID スキーム	CD : 委員会原案
19152	土地管理領域モデル	CD : 委員会原案
19154	ユビキタスパブリックアクセスの要件	予備段階
19155	場所識別子のアーキテクチャ	CD : 委員会原案
19157	データ品質	WD : 作業原案
19158	データ提供の品質保証	WD : 作業原案
19159	リモートセンシング画像センサとデータの較正と検証	予備段階
19160	Addressing	提案段階

表 2 JIS 分科会で作業中の項目 (2010 年 4 月現在)

規格番号	作業項目	作業段階
JIS X 7111	座標による空間残照 (改訂)	作業原案作成中
JIS X 7123	被覆の幾何及び関数のためのスキーマ	日本規格協会へ申請予定
JIS X 7131	データ製品仕様	作業原案作成中
JIS X 7136	地理マーク付け言語 (GML)	日本規格協会にて校正中。

更はない。

- (2) 『品質の要求、評価及び報告のための規則』 Ver.1.0 (H19.3) の一部修正を検討した。技術的に大きな変更はないが、記述の修正や事例の更新等を行った。
- (3) JPGIS は安定しつつあり、今後数年は、大きな技術的変更はないと推測される。

4. 今後の予想

4.1 ISO 19136 (地理マーク付け言語 (GML)) による地理空間データの XML 符号化

- (1) 国内外で地理空間データの GML による符号化が進むと思われる。(ISO/TC 211、INSPIRE、地球地図、基盤地図情報、国

土数値情報、他)

4.2 ISO/TS 19139 (メタデータ-XML スキーマによる実装) によるメタデータの XML 符号化

- (1) 国際的には ISO/TS 19139 に準拠したメタデータの XML 実装とクリアリングハウスへの登録が進むと思われる。(ISO/TC 211、地球地図、INSPIRE、他) 以上

(発表日: 2010 年 6 月 1 日)